

現代社会に即応した社会教育を
- 栃木県社会教育委員会議で考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

世の中では福田首相の御退陣というニュースがだいぶ話題になっていますが、こちらは少し落ち着いた話をさせていただきます。

8月25日に、栃木県の県庁の横にある栃木県公館の国会議室で、「平成20年度第2回栃木県社会教育委員会議」が行われました。私も、2004年度以来、過去4年間栃木県の社会教育委員をさせていただき、また2008年度から新たにこれから2年間の社会教育委員を拝命いたしましたので、その会議に出席させていただきました。

今日は、その栃木県社会教育委員会議で話し合われた内容、つまり、どのようなことが話題になっているのかと、その会議でこれからどのようなことを取り上げなければならないのかについて、少しお話をさせていただきます。

2. 現代社会に即応した社会教育を - 栃木県社会教育委員会議で考える -

(1)社会教育は、学校教育と家庭教育を補うものであり、さまざまな取り組みが行われています。公民館活動、美術館・博物館・図書館・自然体験のできる自然の家・体育館の整備など、学校教育の支援、家庭教育の支援を含めてさまざまな取り組みがあります。

(2)しかし、これからは財政も非常に厳しくなります。また、高齢化が進みます。Globalization(グローバルイゼーション)、つまり外国との交流も盛んになります。そこで、これからの時代にマッチした社会教育というものを栃木県でも考えたほうがよいのではないかと提案を私はさせていただきました。持続可能な社会に向けての社会教育が、生涯学習社会では大事ではないかという主張をさせていただきました。

(3)また、社会教育についても、一定の社会的成果(out put、アウト・プット)を目指したほうがよいのではないかと思います。例えば、これから高齢化がもっともっと進みますが、それに伴って医療費や介護費用が膨大にかかります。それを負担することは、社会にとって非常に負荷・重荷になっていくことは明らかですので、社会教育の成果(out put、アウト・プット)として、一人ひとりが自分の身体を大切に、いつまでも若々しく生きる社会をつくってはどうかと思います。

具体的に言えば、あまりお医者さんにかからなくてもよいような身体づくり・心づくり、もっと言えば「ぴんぴんころり」というのはあまりにも直接すぎる表現ではありますが、認知症になったり寝たきりにならないで、元気な姿で一生を終えることをできるだけ目指したほうがよいのではないかと思います。そうすれば、高齢者の医療費や介護費用が少なくてすみます。長寿社会を迎えることが、社会全体に負荷を与えることを少なくする取り組みが大切と考えます。そのような取り組みがあってはじめて、持続可能な社会ができるのではないかと思います。

(4) そのためには、これから 65 歳を迎える方と 65 歳を既に迎えた方、両方の教育が大事であると思います。どのようにすれば元気でいつまでも若々しく生きられるのか、健康面・教養面すべてについて社会教育として、そのような教育を推し進めることが大事ではないかと思います。私は、介護費用と 65 歳以上の方に対する医療費用のたとえ 1 % でもよいですから、それを 65 歳以上の方のための学習、これから 65 歳を迎える方の学習に振り向ければ、その成果は計(はか)り知れないと思います。

これからの社会教育に一番大切なことは、これから 65 歳を迎える方の教育と 65 歳以上の方のための社会教育であると思います。これにより、学習の社会的効果(out put、アウト・プット)として 65 歳以上の方への医療費や介護費用が激減するのではないか。その結果、日本や自治体を財政危機から救う、国家破産、自治体破産から救うのではないかというのが私の考えです。

(5) 2 つめですが、開倫塾では、栃木刑務所から依頼されて、受刑者 6 名の方に対して先生を 2 名派遣し、今年の 2 月から毎週 1 回、読み書きを中心とした基礎的な学習の指導をさせていただいております。読み書き、計算、基礎的な社会的常識の面で少し学力の不足している方が何人かおいでになるようで、それが社会復帰の妨げになると少し懸念されますので、受刑者の方がうまく社会復帰できるよう支援するために、先生を 2 名派遣して毎週 1 回 3 か月のコースで指導させていただいております。

そこで、気がついたことは、その方たちは学校は出ているのですが、様々な理由で学力が身に付かなかつたのではないかということです。「未修学」というか学校は卒業したけれどもあまり学校に行けなかった、学校には行っていたけれども勉強の中身があまりよくわからなかった、十分身に付かなかつたという方が、学力不足になってしまったのではないかと思います。

(6) そのような方が何人かいらっしゃるのですが、もしかしたら社会の中にもたくさんいらっしゃるのではないかと強く感じました。この世の中には、今、不登校の方や、かつて不登校だった方がたくさんいらっしゃいます。また、学校には行っていたけれど、学校時代に授業が全くわからなかった方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。ですから、このような方々に対する再教育を、社会教育として徹底的に行うことが大事ではないかと思います。それが、ニートやフリーターなどの防止にもなりますし、正規雇用に向けての取り組みにもなると思います。

(7) デンマークという国では、「学校教育も大事であるが、社会人に対する教育が大事である」と社会人に対しての様々な取り組みを行い、この 7 月の統計で失業率を 1.6 % まで下げました。イギリスのブレア首相が「教育、教育、教育」と言いましたが、デンマークでは「社会人に向けての教育、教育、教育」で失業率を 1.6 % まで下げました。ですから、失業率を下げるということでも、社会人に対する教育が大事であると思います。このほかに、外国人に対する日本語教育もとても大切であります。

(8) このように、今までの社会教育ではあまり取り上げられなかった高齢者の方への教育、学校時代にあまり学力が身に付いていない方への教育、外国の方に対する日本語教育、そして、今日はお話しませんでした。障害者の方に対する社会教育も大切だと思います。このような意味で現代社会の課題を直視した社会教育をもう一度考え直すことも大事であると思います。

3. おわりに

今日は、8 月 25 日に開かれた栃木県社会教育委員会議で、私が意見を述べさせていただいた内容を、皆様に聴いていただきました。

- 2008 年 10 月 2 日加筆 -